

井川 空 選手・箱崎 達也 選手の紹介

北海道河東郡音更町出身、両親と妹の4人家族。3歳から町クラブのジュニアオールでサッカーを始め、音更小学校、音更中学校時代はプログレッソ十勝で本格的にサッカーを学んだ。小学4年生時に全道大会で3位となり活躍ができた時に、プロになりたいと思い始めた。中学生時代にはフォワードから守備的ミッドフィルダーに移り、中学3年生の時に監督の薦めにより北海道コンサドーレ札幌U-18へ友人と共に加入、高校は道立札幌西陵高校に進学した。

北海道コンサドーレ札幌U-18時代は本格的にプロを目指して練習に励み、高校2年生時には世代別の日本代表メンバーに選ばれた。

3年生時には北海道コンサドーレ札幌U-18が全国ベスト8に入り、自分のベストレコードになっている。

大学は筑波大学体育専門学群へ進学し、同校のサッカー部でプレーした。

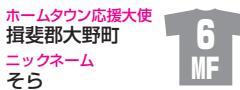
世代別の日本代表チームでは大学1年生までの3年間で、アメリカ、チリ、カナダ、スペインなどへの海外遠征にも参加した。チームメイトには今も日本を代表して活躍中の選手も大勢いて、自分も日本代表を目指している。出色は2学年下ながら同じチームに参加していた久保英選手で、当時から別格の技量であった。大学3年生時に、鹿島アントラーズと北海道コンサドーレ札幌の練習試合に当時の北海道コンサドーレ札幌U-18の四方田監督（現 横浜FC監督）の推薦で練習生として参加させてもらい、そのご縁もあって大学卒業の2022年に北海道コンサドーレ札幌に加入、2023年にファジアーノ岡山へ移籍し、今年からFC岐阜に加入した。

FC岐阜は技術のあるレベルの高い良い選手が大勢いるので励みになっている。またオンとオフの切り替えのメリハリがあって素晴らしいチームと思っている。ここからはここ一番の勝負強さ、我慢強さや気持ちの強さがある方が勝つ中で、自分自身を信頼して使ってもらえるように出場機会を増やして昇格できるよう頑張ります。岐阜は自然が豊かで、住みやすく、自炊もしている一方で様々な外食レストランが各地にあります。

好きな言葉は『人事を尽くして天命を待つ』である。



井川 空 選手(25歳)
ホームタウン応援大使
揖斐郡大野町
ニックネーム
そら



大阪府茨木市出身、両親、兄二人の5人家族。長兄は今も社会人サッカーを楽しんでいる。

長兄の影響で、市立白川小学校1年生のときに町クラブの高槻FCでサッカーを始め、市立東雲中学校時代も同クラブでサッカーに励んだ。

四国学院大学香川西高校のサッカー部では、初めて全国大会に出たが1回戦で敗戦した。大阪学院大学のサッカー部時代には全国大会に4度出場した。2年生の時に総理大臣杯で準優勝し、自分に自信が持てた記念すべき大会になった。この時、自分次第で「頑張ればプロになれる、プロになりたい」と思った。

大学時代の監督やコーチには元Jリーガーが多く、中でも石櫃コーチからはキックの質を上げれば得点に繋がることを徹底して指導された。そのおかげで、4年生の時には関西学生サッカーリーグ21試合で11アシストの成績を残し、アシストランキング2位となったことは大変嬉しかった。

高校の先輩や大学時代の同期の多くがJリーグで活躍しており、自分もFC岐阜で今年からプロサッカー選手のキャリアを始めることうを誇りに感じ、チームの上昇に貢献できるように自分を磨くことを決意しています。

チームは練習の強度を上げながら、短い時間でも一つ一つのプレーに拘って練習をしており、自分も弱みに目を背けずにしっかりとトレーニングで鍛え上げています。第14節の高知ユナイテッドSC戦では自分のクロスから野澤選手が得点し、リーグ戦で2回目のアシストをしましたが、今後は勝利を皆さんと共に喜べるように頑張ります。

自分の性格はおとなしく騒がしくなく誰とでもお付き合いが出来るので、友人がお宝です。

岐阜のファンは暖かい人が多く、大きな声で「ハコ！」と呼んでくれて嬉しい限りです。

岐阜の街はもっと田舎と思っていたが、ご飯屋さんやサウナもたくさんあって、プライベートでも仲間と楽しく過ごしています。特に川の上流の淵にある「テントサウナ」に通い、時折川の水に浸って冷やしたり、またサウナで汗を流して仲間とリラックスを楽しんでいます。夢は、日本代表選手になることです。応援よろしくお願ひします。



箱崎 達也 選手(22歳)
ホームタウン応援大使
揖斐郡揖斐川町
ニックネーム
ハコ、ハコちゃん

